

磯子という街

磯子という街は、根岸湾と言われ古くから漁業、ノリの養殖が行われていました。また、磯の香漂う遠浅の海が広がり潮干狩り、海苔拾いなどの光景があり、山には杉田梅林がありとても風光明媚なところでしたが、やがて埋め立てと国鉄根岸線の建設とともに工場誘致が進み工業地帯となりました。



磯子支部の変遷

磯子区（昭和2年10月）内には、戦前から戦時中にかけて板金同業者の磯子支部という組織があり、資材の配給や仕事の互助等活発に活動していたが、昭和20年以後に自然消滅したと、長老から耳にしていました。

その後、組織の役員だった森 茂氏が佐久間芳男氏を訪れ、磯子区域の半分（磯子町・森町・中原町・杉田町）をまとめ、支部の再建話があり、区内の板金店を1軒、1軒廻り同意者を募り、昭和38年に10名の支部員で磯子支部を結成、再スタートしましたが、以後50数年経過の中、店主の高齢化や後継者の問題等から廃業者が続き、現在は1店のみですが、息子ともども老体に鞭打ち頑張っています。

歴代支部長

初代 佐久間芳男（昭和38年～昭和43年）

二代目 佐久間弘之（昭和43年～現在に至る）

